

ウランバートル空港に降り立った瞬間、滑走路の向こうに広がる果てしない草原と点々と並ぶゲルが目に飛び込んできました。爽やかな高原の風に迎えられ、「本当にモンゴルへ来たんだ」と胸が高鳴りました。しかし車で市内へ向かうと情景は一変し、ガラス張りの高層ビル、ひしめく建設クレーン、そして動かない車の列、大自然と急速な都市化が同居するダイナミックな国の姿がそこにありました。空港から目的地までの道のりは、本来 40 分程度の距離にもかかわらず、最後の数キロで 1 時間以上足止めされる渋滞に巻き込まれ、「発展の光と影」を身体で感じる貴重な体験となりました。

到着後は ASPAC 会場を下見し、先にモンゴル入りしていた稲垣君、野呂君と合流。稲垣君は現地の伝統衣装「**デール**」を早々に買い込み、その順応力と行動力に驚かされました。夜は JAPAN ナイトの設営をサポートしながら、全国の JC メンバーや**姉妹 LOM**、**雨港 JC** の仲間と再会。モンゴルという異国であっても、一声かければすぐに輪ができる JC ネットワークの強さと温かさを改めて実感しました。

翌朝は理事長とホテル周辺を散策。渋滞を避けるため試しに借りた電動スクーターが想像以上に快適で、新興都市の日常を肌で感じながら短時間で効率良く観光できました。夜の GALA 会場へ向かう際には、偶然通り掛かったモンゴル JC メンバーが車に乗せてくれるというサプライズも。異国の地であっても「JC」という共通言語が人と人をつなぎ、扉を開いてくれる瞬間に胸が熱くなりました。

GALA では、稲垣君がかつて浄水器設置で協働した**カンボジア**、**シェムリアップ JC** のメンバーと再会し、感謝の言葉を掛けられている場面に立ち会いました。その光景から、私たちが日々の活動を通じて世界のどこかで確かに価値を生み出していること、そしてその成果が人と人との絆として残っていることを強く感じました。同時に、英語と簡単なモンゴル語、カンボジア語フレーズでのやり取りの中で、語学力だけでなく「**伝えようとする姿勢**」こそが交流の基盤だと痛感しました。

今回の参加を通じて得られた学びは、「急速に変化する都市課題を自分の目で見ることの大切さ」「出向メンバーが全力で挑む姿を共有し合うことで組織全体の士気が高まること」、そして「世界を舞台に活躍するには基礎体力としての**語学**、**IT リテラシー**、**情報共有**の仕組みが不可欠である」という**3 点**に集約されます。一方で、渋滞による時間ロスや直前手配によるコスト高、出向者の活動がリアルタイムで共有されにくいといった課題も浮き彫りになりました。これらは、次年度以降の国際事業をより実りあるものにするための大切な宿題だと受け止めています。

